

“Born Free” 再出発のとき

服部 篤子

「サバンナの風に訊く」と題した動物写真展を訪れた。目に留まった「フラミンゴ」は、静かに1本足で立ち、水面に写る姿は見事に美しいものだった。今年の「第2回 日本女性学習財団 未来大賞」は、グループである「女性義足ユーザーコミュニティ『ハイヒール・フラミンゴ』」と決定した。義足ユーザーと製作者たちの4人のオムニバス形式のレポートである。それぞれが抱える問題を、共感し合える個がつながりあったグループの力によって克服できることを知らせてくれた。下肢切断の当事者は、「その日」ルイ・ヴィトンのハイヒールを買った、という衝撃的なくだりがある。強い決意をもって再出発するも、葛藤ともとれる気持ちにがにじみ出ている。その後、このコミュニティを形成することで同様の思いをもった人々がいることに気づいていく。

写真展で、写真家の渡壁^{わたかべだい}さんに『ハイヒール・フラミンゴ』の話をしてみたところ、展示写真以外のフラミンゴを見ることができた。それは、フラミンゴが2本足を見せて力強く羽ばたく写真であった。フラミンゴの生き生きとした飛翔が本来の姿かもしれない。受賞者たちはまさに羽ばたく状態にある。

再出発はリセットではない。応募作品の中には多様なキャリアが描かれていた。家族、出産、仕事によって女性のライフスタイルは大きく影響を受ける。そして、過去の経験の上にキャリアを形成していく。時に、つらい、苦い過去を経験した話も少なくなかったが、自分を信じ、自由に生きる選択をした喜びも伝わってきた。その未来の広がりが見えたとき、再出発といえるのかもしれない。

写真展のメッセージに、「ほら、風が動物たちのメッセージを伝えてくれる。“Born Free” 自然に生きよう、自由に生きよう、そして生命を信じよう、と。」があった。背中を押すこと・ものは、人との出会い、自然の営み、仕事、大学・大学院での学びなど多様にあるのだと思う。最近は多くの社会人院生と対話をする機会が増えた。「学を修する豈^あに今日に限らん」。新島襄の言葉である。



PROFILE

はっとりあつこ：同志社大学政策学部教授、(一社)DSIA 代表理事。当財団理事。専門は、社会起業論、非営利組織論、公共経営学。編著に『ソーシャル・イノベーション：営利と非営利を超えて』（日本経済評論社、2010）、『未来をつくる企業内イノベーターたち』（近代セールス社、2012）、共著に『ソーシャル・キャピタルと経済』（ミネルヴァ書房、2018）など。ソーシャル・イノベーションの概念のもと人財育成事業に注力している。